

2013 年度基本方針 ゲルマニウム半導体測定器による高精度測定体制の確立

課題	2013 年度達成状況	2014 年度の計画
1.測定精度と信頼性の確保 測定作業標準書を作成し、繰り返し測定精度 20%以下を目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 測定作業マニュアルを作成した。特に測定室汚染トラブル（2013.8 発生）を踏まえ汚染トラブル防止の観点を盛り込んだ。 ・ 標準土壌サンプルによる定期確認体制により繰り返し精度 20%を維持している。 ・ 過検出トラブル対応、新ゲルマへの入れ替え立上げを自らの手で行いゲルマ測定器保全の技術レベルが向上した。 ・ 2000ml、U8 容器の校正を自らの手で行い校正技術を身につけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き測定精度維持。 ・ エアダストサンプラー、リネン布放置法など大気中浮遊塵の放射能測定技術確立。
2. シンポジウムの開催 評価結果を合評、学習する場とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 島菌進上智大教授を招いて第 1 回シンポジウムを開催、約 100 人の参加を得た。 ・ ちくりん舎見学会を行い 30 人の参加を得た。 ・ 第 2 回を活動報告会として開催準備中（5 月 25 日）。 ・ スタッフによる低線量被ばくの学習会をスタートした。5 回開催。ECRR2010 年勧告、「場の線量から人の線量へ」論批判、ウクライナ政府報告書（2011 年）などを学習。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会員団体、個人の相互の経験、技術交流によるレベルアップ。 ・ 低線量被ばくについての学習、教育活動の拡充。
3. 事務処理作業の効率化のための業務システム構築 管理の面から高精度で信頼性の高いものとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受付から測定料金回収までのシステムを作成した。業務マスターによりオペレータが入れ替わっても業務が引き継ぎできる仕組みができた。 ・ 6 名が測定オペレーションをできるようになった。 ・ 測定結果のダブルチェックの仕組みを作り確実に運用できるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事務作業（会計）業務の標準化と業務負荷の分散による軽減。 ・ 事務スタッフの確保。
4. 安定した料金収入を得るための検体数量の確保。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 450 検体の測定を行った。初年度としては収益を確保し MCA の予備機を購入と測定器室の空調の完備を行った。 ・ 新たに 11 団体、118 人の会員、45 人の賛助会員を得た。 ・ ちくりん舎リーフレットを発行した。 ・ ウェブサイトに「ちくりん舎の利用案内」を掲示。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ちくりん舎利用案内リーフレットの発行。 ・ 各種プロジェクトの企画と推進。
5. 定期的なホームページ更新と通信発行（年 4 回）体制の確立。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ウェブサイト随時更新中。（最近月訪問者約 73 人／日、参照ページ 193 ページ／日） ・ ちくりん舎ニュースを 4 号発行した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ちくりん舎ニュースの拡充。
6. NPO 法人化 プロジェクトチームを作り 8 月認証 を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2013 年 12 月に NPO 法人認証を得た。 	